

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 12 月 8 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491700096		
法人名	株式会社ディア・レスト福山		
事業所名	グループホーム松花園		
所在地	広島県府中市上下町上下851番1		
	電話番号	0847-62-8322	
自己評価作成日	平成 27年 10月 15日	評価結果市町村受理日	平成 28年 1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 27年 11月 25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員一同が企業理念である「ひとにやさしい介護を目指して」の実現に向けて取り組んでいます。入居者様の安心・安全はもとより、ご家族様にも安心していただけるよう地域の皆様との交流を大切にし、またご理解とご協力をいただきながら医療機関との連携により、入居者様がいつまでも健康で、その人らしく、穏やかに、笑顔で過ごしていただけるように努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>重厚な純和風の建物となっていて、木と土壁が何とも言えない懐かしさとぬくもりが感じられる。また、暖炉もあり、まきの燃える音や暖かさが誰もの心をそっと包み込んでくれる雰囲気である。すぐそばに駅があり、知人や親戚の方が訪問し易く立地条件に恵まれている。協力医療機関も近くにあり、医療連携が確立されていると共に職員の中に看護師が数名おられ、医療面が安心、安全である。開設2年余りであるが地域との付き合いも順調に深めていて、多種多様なイベントや行事に出かける事で知人や親戚の方等に会う場面も多く、今までの生活に近い、馴染みの場所、昔からの習慣、馴染みの人との触れ合いが保たれ、落ち着いて穏やかな生活ができている。ケア面に於いても理念である「人にやさしい介護」を念頭に置き、其の人の思いを大切に寄り添った支援で大家族の様に利用者、職員が支え合い出来る事は役割としてしてもらい、張りのある生活に繋げている。玄関周りを掃いたり、食事の後片づけ等率先してされている方もおられ、また、利用者同士で気配りされる場面もあり、活動意欲と残存機能の維持に努められている。地域のボランティアや家族の訪問も多く、気軽に訪問できる雰囲気づくりがされている。事業所の祭りには家族をはじめ、地域住民の子供やお年寄りまで多くの参加者があり盛大に行われ、地域の一員として理解が得られ協力関係が深まってきている。今では地域になくてはならない事業所となっている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	イ・ア	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム松花園独自の理念は作ってはいませんが、ディア・レストグループ全体の理念である「ひとに優しい介護」を共有して実践しています。	法人全体の理念、基本方針、行動指針十か条等を掲げられ、月1回の会議で周知すると共に日々のケアの中で常に念頭に置き、全職員で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント・祭りには、参加しています。スタッフ・入居者様が上下の方が結構おられるので、地元のボランティア様・地域のお知り合いの方等の訪問もあります。又、地元のショッピングセンターにみんなで買い物に出かけています。	清掃活動や地域行事(とんど祭り、雛祭り、かかし祭り等)には積極的に参加し地元の方と触れ合う機会となっている。また、事業所の夏祭りには地域の方や多種多様なボランティアの訪問もあり多くの人との交流が図られ、地域の一員として溶け込むよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自施設の行事等、地域の方やボランティア様に参加していただき、取り組みを見て頂いています。商店街にもよく散歩に出かけ、地元の人との触れ合いもあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や取り組み、入居状況の報告。他施設での情報を頂き参考にしていきます。今年上半期の行事DVDを作り、運営会議にて見て頂きました。	家族代表をはじめ、地域の各役員の方、行政、時には消防団長や市議員の方等の参加の下、運営状況や取り組み状況等を多岐にわたり報告し、貴重な情報や意見などが得られ、サービス向上に活すと共に理解が得られる働きかけもされ有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の会議に参加。運営会議でも情報を交換できています。	包括主催の地域ケア会議に出席し事例発表や勉強会、情報交換等を行う事で連携は図られている。又、運営推進会議に行政担当者の参加が得られ、その中で助言等してもらう事もあり現状については理解してもらっている。書類の手続きや疑問点がある場合は出向している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止の会議を、3カ月に1回行っており見守りを心がけ、身体拘束のないケアに取り組んでおります。夜間9時以降は玄関の施錠。	身体拘束を含めた虐待拘束委員会を設け、事例を基に勉強会を定期的実施し周知徹底している。不穏な状況が起きた場合はさりげなく着いて行かれたり、要因を把握し職員間で協力しながら見守り重視で支援されている。モニターも設置され、制止しない対応に心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行い、情報を共有しています。また、日頃の生活の中で、私たちが虐待の意識がなくなってしまう事もあるので、スタッフでの話し合いを行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を以前手続きうをして、活用されておられた入居者様もいます。現在1名手続き中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、家族様や、ご本人様に見学に来ていただき説明をしております。契約時にも時間をかけて説明致しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様よりスタッフに要望が入った際には、連絡ノートや会議にて話し合い、改善している。運営会議にて家族様も参加されておりその時にも貴重なご意見を頂いております。	便りと共にコメントを添え、状況等を伝え聞き取るようにしている。家族との信頼関係を築き些細なことでも気軽言える雰囲気づくりに努めている。イベントで家族が集う時に聞く事もある。利用者が直接事務所に気付きを伝えに来られる。意見や要望は記録し会議や申し送り周知し検討され個々に対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体のミーティングを行っております。その会議にて意見や、提案を行い、新しい決まり事を決めるようにしております。	各ユニットで日々のケアの中での気づきを出し合い、全体会議で提案し検討してもらっている。休憩時間の雑談からも様々な情報を交換し合い内容によっては会議で検討してもらう事もある。不定期の個人面談もある。提案等は反映させサービス向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に新人スタッフには、思いや考えを聞く等のコミュニケーションの場を作り、心のケアに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設書の研修にも参加させてもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のケア会議に参加したり、北市民病院の勉強会等にも参加をして地域の同業者との活動をしております。又、福山・広島のディア・レストに行き行事等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報をスタッフ間で共有し、ご本人様と関わっております。そして信頼関係を作りながら、良好な関係が気づけるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、不安に感じておられる事や、要望などに対して、できるだけ傾聴している。そして施設でどのように過ごして頂きたいかを聞きとり、要望にこたえられるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・本人様が、今一番必要としている事、困っている事を確認して、スタッフ間で共有し良い支援に繋がるようにしています。そして、できるだけ希望に沿った生活ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる事は、手伝って頂いています。また、できるだけ入居者様に寄り添い、昔の話や、今思っておられる事を傾聴しながら生活を共にしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携も大切に致しております。行事等の参加も連絡し、変わった事があった場合には、電話連絡をしております。毎月1回施設での生活状況を手紙にて、写真と一緒に置いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの店に買い物に行ったり、入居者様のお知り合いの方も面会にいられています。地元のボランティアの方々や、地元の傾聴ボランティアの方たちにも来て頂いております。あやめ(温泉・観劇)に行き、芝居を見て地元の方々との交流もできました。	病院受診の際や地域行事への参加等で馴染みの方と出会う機会も多く、又、様々な地域ボランティアの訪問の中でも触れ合う事ができていると共に家族と墓参りや自宅に帰られる事もあり、これまでの生活に近い環境で関係が保たれる様柔軟な支援をしている。知人の方の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格などを把握し、洗濯物をみんなで集まりたたんでいたり、玄関先で歌を歌ったり、お茶をしたりしております。気の合う入居者様同士でドライブに行ったりもできております。(ホーム長運転)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者様も家族様と、遊びによって下さる事もあります。よその施設に変わられた時なども、話をしに面会に行くこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションにて希望を聞きとる事のできる場合には、聞きとりをし、希望に沿ったように支援をしています。洋服を買いに行ったり、買い物に行く事もあります。言えなくても、できるだけ感じ取りスタッフで話し合う場を設けております。	個別対応(入浴、夜間、居室等)の中で想いを出されたり、日々の会話や利用者を介して聞く事もある。直接事務所に来られ言われる方もあり、個々の思いは大切に受け止め職員にも周知し、プランに反映させると共に個々の想いに沿う様努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集にて生活歴・生活環境を聞きとり、又、入居されてからの生活の中でその人にあった支援ができるようにコミュニケーションを取り、現在の入居者様にあった支援ができるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調の変化等にも気を使い、記録に残しています。手伝って頂ける事はお願いして、毎日の役割として手伝ってもらっています。できるだけADLが低下しないように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様からの希望、本人様からの希望をなんでも話して頂き、計画に反映している。また、スタッフの意見もきき、現状に即した介護計画を作成しています。	アセスメントやモニタリングから課題やニーズについて職員間で話し合い、本人家族の希望を反映させ個々に沿った計画となっている。モニタリングは毎月実施し、定期的に見直しもされている。家族の承諾を得ると共に職員にも周知し、統一した支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等こまめに記録に残し共有している。そこからの情報を見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズに合った支援をするように心がけています。家族様にも相談しながら、入居者様のニーズにこたえるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流や、民生委員の方の面会・近所の方に来園していただいています。傾聴ボランティア様にも来援していただき、昔の話や、色々な話を聞いて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による施設での往診・家族様の希望されている病院への受診・希望される医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の往診が週1回あり状態を十分把握されている。訪問歯科支援もあり、夜間や緊急時24時間、医師や看護師の指示が得られる体制となっていて安心である。かかりつけ医や専門医への受診は家族と相談し、家族の場合は状況を口答か文書で伝えている。結果についても両者で共有し安全確保に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が4人現在勤務しているので、常に報告・相談し、支持を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の北市民病院の相談員とのこまめな連絡はとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明できている。また、状態の思わしくない時には、医師より報告を受け、ご家族様に報告し、今後の方針を確認している。	利用開始時、重度化した場合の対応に対する指針について説明をし、意思確認をされてるが状況変化が起きた場合は医師の判断を家族に説明し細やかに現状を伝え家族の思いをその都度確認しながら思いに沿う支援に努めている。看護師が数名いる為、職員も不安なく対応出来る。又、医師との連携も出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、ドクターより救急車は呼ばずにすぐに車対応をするようになっています。5分もあれば病院まで到着できるため。そのほか、会議にて緊急時の対応は毎回話をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフの連絡網の作成。年2回の消防避難訓練を行い、指導を受けております。	年2回実施し消防署指導と自主訓練をされている。通報、避難誘導、消火等的確に出来る様、緊張感を持ってされている。不参加の職員には議事録と写真で確認してもらっている。連絡網の整備、消防設備点検も3ヶ月に1度行い、万全を期している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての対応をスタッフ一同心がけています。また、入居者様のプライベートなスペースに入る場合には、マナー違反の無いように徹底しています。	敬意を持った対応に心掛ける様周知されている。研修も実施し、気づいた時には注意し合い統一したケアに努めている。又、入室の際にはノックや声かけをする等常にプライバシーを損ねない支援に取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が思いや希望を表現できるような、施設内の雰囲気作りが出来ている。日頃からコミュニケーションをとり、信頼関係を作るように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に出来る限り希望に添えるように心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方は身だしなみに気をつけておられますが、そうでない入居者様は、スタッフが注意して対応させてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクなども行っています。庭園にてつくつた野菜を入居者様と収穫して調理に使っています。下善できる方にはして頂いております。	利用者の希望を取り入れ、好き嫌いにも対応し、食事が楽しみとなる支援に努めている。また、食材も旬の物や季節を感じられる物を取り入れている。テーブル拭きや食器洗い等今までの生活歴を活かし役割としてされている。笑い声もあり楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食食用・水分量は常にチェック記録に残しております。一人ひとりに合った食事量・形状にして対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様にあったかたちにて、口腔ケアをして頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声かけをしたり、または、ポータブルトイレを利用して頂くなどの対応をしています。	個々の時間帯でトイレ誘導を行い、生活習慣を活かした支援に努めている。自立の方には見守りで対応すると共にパット類も個々に合ったもので対応されている。排便チェックもされ不快にならないよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを理解して、下剤の調節をさせて頂いています。看護師・医師にも相談しながら、予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月曜日から、土曜日までを入浴日として、対応していますが、日曜日に希望がある場合には、対応しております。1週間に2回以上の入浴の声かけを行っております。	回数や時間帯は決められてはいるが其の日の希望に沿う様支援されている。入浴剤や湯温、時間等の要望にも柔軟に対応し、個々に沿った支援で楽しく入浴してもらえるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り、本心様の意思を尊重し、自由に休息して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があるときには、その都度確認をして、連絡ノートや業務日誌に記入してみんなが確認できるようにしております。また、入居者様の症状の変化にも早期に気づけるように対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干して頂いたり、たたんでいただいたり、玄関の掃除、室内のモップ掃除、園庭の落ち葉を履いて頂いたりしています。みんなでショッピングセンターに買い物に行ったり、ドライブに行ったりと、気分転換の時間を作っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には、洋服を買いに甲山に出かけたり、ショッピングセンターにて買い物をしたり対応しています。秋には、おきな山の展望台までドライブしました。	地域行事や近隣の温泉等に出かけたり、ショッピングセンターで買い物やお茶をする等楽しみごとと気晴らしの支援に努めている。又、玄関に椅子やテーブルを並べ歌を唄ったり寛いだり、広い敷地内を散歩する等外気に触れる機会と五感刺激となる対応に心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる入居者様は自分で管理をされておられます。また、施設でのお預かりにて、一緒に買い物に行き対応している入居者様もおられます。そのほかの入居者様は、特にお金に関しての対応はありません。みんなでの買い物は、選んで頂き、施設側のお金で対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っておられる入居者様もおられます。各居室に電話線も引けるようになっております。事務所に電話がかかってくるので、事務所での対応をさせてもらっております。手紙でのやり取りは、ほとんどありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設としては珍しい木造建築、壁も土壁作りとなっており、温かみのある建物となっております。冬には、暖炉もあり、おちついた雰囲気にて生活が来ていると思います。照明も明るすぎず、廊下・リビングも広い作りになっています。	木造作りの純和風建築となっており、吹き抜けのリビングで廊下も広くゆったりとしている。暖炉の燃えるまきは何とも言えない温かみがあり温湿度も適度で不快な匂いもなく清潔に保たれている。季節を感じる装飾品もあり、死角もなく、落ち着いた過ごせる共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広いので、ソファーや食事のときの入居者様の決まった席も用意しております。廊下にも座れるスペースも十分にあり、天気の良い日には玄関先にも座れるように椅子を用意しております。木のあった人と、お茶を飲んだり、歌を歌ったたりして過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様のお部屋は、本人様と家族様にて、なじみのあるものをそろえてもらっております。	テレビや寝具、収納ケース、思い出の写真なども持ち込まれ、使いやすい配置で其の人のらしさが感じられ落ち着いた過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部、特に利用者様が共用で使用する所には不要な物を置かないよう心掛け、利用者様の必要物品は定位置を決め配置している等の工夫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらい			○	②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		①ほぼすべての利用者が				
		○	②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
株式会社 デイ	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13 ・ 14	日常業務だけに満足することなく、スタッフは常に学習する姿勢を持つ。	認知症を理解する。	認知症予防に取り組んでいる事例など、外部研修で学んだ情報を共有し取り入れられることを実践する。	通年
2	55	装飾が季節ごとに変わる壁面もあれば年中そのままのものもある。	認知症予防につながる根拠ある壁面作りをする。	“献立表”や“今月の行事”等の提示をする。 (頭の中でイメージし易いもの)	H28、4月 ～ H29、3月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。